

## 未来の水

山添村立山添中学校三年

中谷 碧葉

「水ってこんなにも少ないの?!」

これは私が国語の授業で学んだことです。

私は昨年、国語の授業で

「一〇〇年後の水を守る」

という単元を勉強しました。この単元では日本にはたくさん水があるが、使える水はとても少ないので今ある水をどのようにして守っていくかの対策方法が考えられていました。あくまでも説明文なので筆者の考えが入ってきているので、この文章をどう感じるかは人それぞれだと思います。そして私はこの文章を読んで、今の日本の水についてとこれからどのようにして水を守っていくかを深く考えました。

まず最初に今の日本の水については、教科書を読んでから人間が使える淡水というものは地球の全体の二・五パーセントしかありません。

せん。そしてその中でも約七〇パーセントは凍っています。その他の水は何かというと海水です。なので、割合は九七・五パーセントです。なので私たちが使える水というのは本当に限られています。

人間は生きていくために水を無意識に使っています。例えば生きていくために最低限必要な水の他、手洗いや洗面、お風呂などの衛生面や野菜などを作るため必要な水もあります。そして日本は年々人口が増加しています。二〇五〇年には人口が九七億人にもなると予想されている。なので必然的に水を使う量が増えます。ということはただでさえ少ない水が減っていき、最終的には無くなってしまうかもしれません。なので今から私たちが水が無くならないように対策等をしていくことが大切になってくると思います。それと今使えない水を使えるようにしていくことができないか、と私は考えています。

対策として一番手っ取り早く、やりやすい

と思うのは節水です。これはもう家庭でしているところもあるかもしれませんが。節水の例として、洗濯機を使う時にできるだけまとめ洗い、回数を減らすことで節水ができます。他にもお風呂の残り湯を使い、対策することできます。他にもシャワーや歯磨き、洗顔などの時に出したままにしないなど沢山あります。それとお金はかかりますが、節水シャワーヘッドなども今話題になっています。実際にシャワーヘッドの穴が小さくなったり、少なくなったりして出来ていて、いつも通り使っていても節水ができます。節水は自分たちで意識的に行うことで対策することができません。

次に今使えない水を使えないかということ。私がこれを考えた理由は理科の実験の時、海水をろ過し、真水にすることが出来たのでそれを効率よくすれば使える水を増やせないかと思いました。そして私のいたところは自衛隊員として働いているのですがこの前、い

とこの所属している駐屯地でイベントがあったので行きました。そこで私は車で水をろ過することが出来る車を見つけました。これが何かと言うと、今年の一月一日に起こった石川県での能登半島地震で被災した地域では断水による水不足に陥っています。今でも自衛隊の方が出勤しているそうですが、地震で被災された方々は今ある水を有効活用していかなければならない状態で水をろ過出来ればたくさんの水が使えると思いました。そんなに簡単にいくものとは思っていませんが、出来ればたくさんの方々のためになると思いました。

私はこの国語の単元の内容と実際に起きた地震、自衛隊の活動を見学をし

「これからの未来を作っていくために水は大切にしなければいけない」

と感じました。私はあまり節水活動が出来ていないと思っっているので、この作文を読んでいる方々と一緒に水を未来まで残していくために活動していきたいです。